

山形県感染症発生情報

第3週(平成21年1月12日～平成21年1月18日)

疾患名	報告数	増減	特記事項
(小児科定点 29)			
RSウイルス感染症	3	△	
咽頭結膜熱	5	▽	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	115	▲	多発中
感染性胃腸炎	386	▲	多発中
水痘	57	▽	多発中
手足口病	6	▽	
伝染性紅斑	4	▲	
突発性発しん	22	▲	
百日咳	0		
ヘルパンギーナ	0		
流行性耳下腺炎	16	▽	
(インフルエンザ定点 47)			
インフルエンザ	1156	▲	多発中
(眼科定点 8)			
急性出血性結膜炎	0		
流行性角結膜炎	2	△	
(基幹定点 10)			
クラミジア肺炎	0		
細菌性髄膜炎	0	▽	
マイコプラズマ肺炎	0	▽	
無菌性髄膜炎	0		

(▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少、多発中:報告数50名以上)

疾患名	報告数			累積報告数 *2009年1月から	
	第3週	1週前	2週前		
2類感染症	結核	3	7	1	11
3類感染症	コレラ	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	1	0	5	6
	パラチフス	0	0	0	0
4.5類感染症	E型肝炎	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	0
	アメーバ赤痢	0	0	0	0
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0
	急性脳炎	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0
	ジアルジア症	0	0	0	0
	髄膜炎 細菌性髄膜炎	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0
	麻しん	0	0	0	0

- インフルエンザは、県内各地区で著しく増加しており、県全体の報告数は前週比約1.7倍となった。特に、最上地区の定点当たり報告数が多い。今シーズンのインフルエンザ累積報告数は2513名で、過去10年間では2003-2004年シーズンに次いで多く、警戒が必要である。1月14日以降、県内28施設から集団発生の情報が寄せられている。迅速キットによる陽性例では、各地区ともにA型が多く検出されている。患者は5歳をピークとし小児が中心であるが、年齢幅は広い。ワクチンの接種や手洗い、うがいの励行、マスクの着用など予防対策が重要である。
- 感染性胃腸炎は、県内全域で流行している。県は1月10日から1ヶ月間ノロウイルス食中毒注意報を発令している。ヒトからヒトへの感染力が強いいため、感染者の嘔吐物や便の処理には十分注意するとともに、手洗いの徹底が重要。
- 水痘は、県内各地区で減少しており、県全体の報告数は前週の約1/3まで減少した。
- 流行性耳下腺炎は、庄内地区と置賜地区で大幅に減少している。
- 結核の患者が、村山地区から2名(東南村山 1、西村山 1)、置賜地区から1名(東南置賜 1)報告された。また第2週分に、村山地区から患者1名(西村山 1)が追加報告された。
- 腸管出血性大腸菌感染症の無症状病原体保有者が、村山地区から1名(O91 VT1)報告された。

(1月20日現在 山形県衛生研究所)